



生駒市 高山ため池ハザードマップ

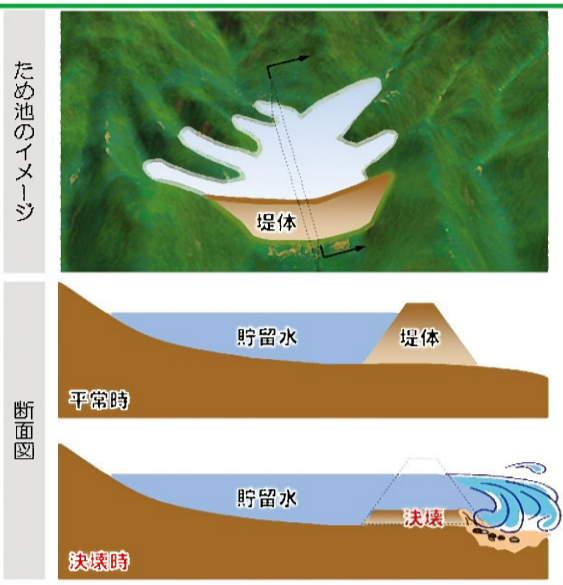
～地震時の堤体決壊による浸水被害予測～

1 ため池の決壊に備えて

多くのため池は、谷の一部を堤体でせき止め、貴重な農業用水を貯めています。

万が一にも堤体が決壊すると、貯留水が一気に下流に向けて流れ出します。

東日本大震災の教訓を踏まえて、あらゆる事態を想定しておくことが重要です。



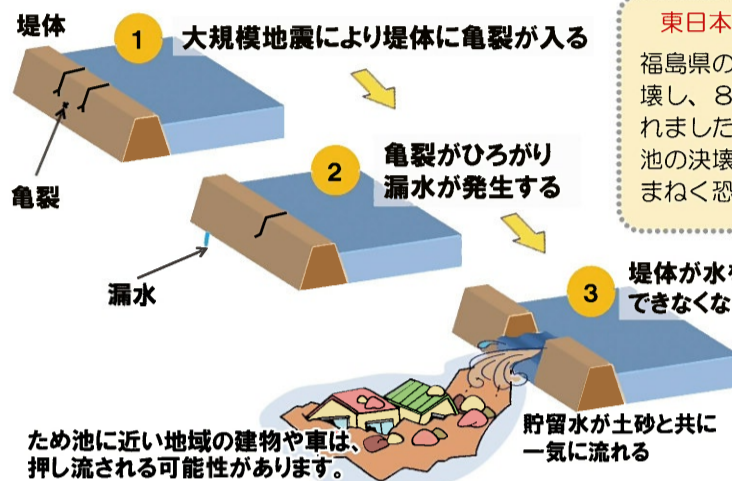
このマップを参考に、どこに逃げるかを事前に考えておきましょう。

2 もしも、地震でため池が決壊したら？

大きな地震によって、万が一にもため池の堤体が決壊した場合、一度にたくさんの水や土砂が下流に向けて流れ出します。

ため池に近い場所では、水の流れが早く、押し流す力も強いので、建物や車でさえも流される可能性があります。

水の流れが毎秒1メートルを超えると、50cmの水深でも立っていることができなくなります。すみやかに避難しましょう。



東日本大震災では…
福島県の藤沼貯水池が決壊し、8名の人命が失われました。池の決壊は甚大な被害をまねく恐れがあります。

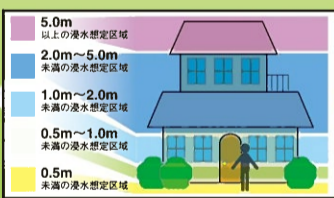
3 ハザードマップの使い方

大きなゆれを感じたら、まずは避難を！

ため池の亀裂や漏水などの異常を発見した場合、地域の安全のために連絡しましょう。
生駒市役所 環境経済部 経済振興課
0743-74-1111 (代表)

【1】地震の前にやっておくこと

- このハザードマップで、ご自宅の場所を確認しましょう。
- 次に、ため池の場所を確認しましょう。
- ため池の決壊による「浸水範囲」と「浸水深」を確認しましょう。
- ご自宅が浸水する可能性があるかどうか、考えましょう。



大量の土砂と水が一気に流れてくることを想像しましょう。流れに巻き込まれてはまず助かりません。

- ご自宅が浸水する場合、一次避難場所（緊急的に命の安全を確保できる場所）への避難ルートを考えましょう。
- ため池が決壊したら、早い場所では数分で決壊流が到達する可能性があります。できるだけ早く、かつ安全なルートを選ぶ必要があります。まずは命を守ることを最優先に考えます。

- 一次避難場所から、二次避難場所（避難所生活を送れる場所）へのルートも考えておきましょう。

自宅が終わったら、自宅以外の普段過ごす場所についても考えてみましょう。

【2】地震発生後の注意事項

- まずは命の安全を！
地震が起きたら、まず身の安全を確保してください。
- 二次被害の防止（可能であれば）
火元を確認し、消して下さい。可能であれば、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓をしめてください。外に出るときは歩きやすい靴を履くようにしましょう。
- 避難時の注意
避難路は様々な危険が想定されます。臨機応変に危険を避け、橋は極力渡らないように一時避難場所を目指してください。特に夜間は足元が暗く危険です。懐中電灯などを玄関先に用意しましょう。ため池が決壊してから避難しても、間に合わない可能性があります。大きなゆれを感じたら、まず避難！
- 助け合い
可能であれば、近所の方や、一人暮らしのお年寄りなど、助けの必要な方にも声をかけてあげて、皆さんで避難してください。

※ このハザードマップは、地元自治会役員の皆さまや区域内の保育園、幼稚園、小中学校、消防関係、北倭主地改良区の方々とともに作成しました。



問い合わせ
生駒市役所 企画財政部 危機管理課
環境経済部 経済振興課
0743-74-1111 (代表)